

# 広報

# やすと



## できればはどうでした？

こちらは8月5日に行われた、公民館講座の「自然木木工講座」の様子です。木は森林組合から提供を受け、子どもから大人まで28名の参加者は机やイスづくりに精を出していました。

「物を自分の手でつくり上げるって楽しいですね。また来年もやってほしいです」といった参加者の声。講座は皆さんの好評を得たようです。子どもたちも普段は使わない道具を前にはじめは戸惑っていましたが、先生の指導を受けながら、見よう見まねで作業に取り組んでいました。夏休みのよい思い出となったことでしょう。

1998

8

NO. 518

# 地域社会で共に生きるために



94歳の元気なおばあちゃんとの会話はパワーに押しされざみ

町内の四つの中学校から、十九名の生徒が参加してボランティア体験ワークショップが行われました。これは、町の社会福祉協議会の主催によるもので、参加した中学生たちは、夏休み中の七月二十八日と二十九日の二日間、福祉に関する話を聞いたり、アイマスクをして道路の歩行や階段の上り下りを体験したりして、見えない状態での怖さを知り、目の不自由な人の誘導の仕方などを学びました。また、特別養護老人ホームを訪問して、お年寄りの話し相手や入浴の介助、清掃などのボランティア活動を体験しました。

みなさんの感想などと合わせて、体験のようすを紹介してみます。

## 伸ばそうボランティアの芽

### お年寄りには目配り — 心配り、心配りを —

体験訪問をすることになっている特別養護老人ホームの説明の中で、施設長の菊地丈夫さんは「年を取ると体の機能が衰え、若い人とは違い少しの痛みでもひどい痛みを感じたり、気弱になったりして、さびしい気持ちになっているのが老人の特性である。施設内の老人たちも同じであるので、そういうところを理解して、『目配り、心配り、心配り』の気持ちを持って、みなさんからすすんで話しかけてほしい。また、家にお年寄りがあるならば、人生経験の豊かなお年寄りから学ぶことは多いはず、よく話を聞くことが大切」と話していました。



# 不安いつぱいの

## 目かくし歩行

アイマスクをつけ、介助者の誘導で歩く目かくし歩行や階段の上り下りの体験、車いすの介助の仕方など、石岡市にある重度身体障害者更正援護施設「光風荘」指導員の蛭沢保明さんの指導を受けて行いました。

### ● 視覚障害者と対応する場合の大事なエチケットは

視覚障害者を無力な者として必要以上に憐んだり、一般社会から遠ざけたり、あるいは神通力でももっているかのように取り扱ったりせず、ただ目の不自由な一人の

社会人だと理解し、対応することが視覚障害者に対するエチケットなのです。

### ● 視覚障害者が安心して街を歩けるように

自転車や自動車、店先の品物や看板など、歩道上に置いたり、大切な手掛かりになる点字ブロックの上に置かないようにしましょう。また、歩道をスピードを緩めな

## 手引き歩行のポイント

- 介助者の肘を持たせてあげて、リラクセスして同一歩調で半歩前を歩きます。周りの風景などを説明しながら楽しく歩きましょう。
- 障害物、階段、曲がり角などの位置や方向を教えるときは、前後左右とか、何歩・何メートルのところがあるとか言いましょう。
- 指差しや「あっち」・「こっち」といった表現ではわかりません。
- 道路を歩く場合、介助者が車道側になったほうが安全、また歩道脇にふたのない側溝などがある場合は、介助者が側溝側を歩くほうが安心して歩けます。



車いすで階段を上がる時には協力者を見つけ2人で持ち上げます

# ひらいてまごころ伝える 始まるボランティア



## 勉強になった 2日間のワークキャンプ 園部中3年 細川孝之

「老人ホームは『病院』ではない」とこの言葉がほくの胸に深く刻みこまれた。今までは、老人の世話をしている『病院』のようなのだと思っていた。多分、そういうイメージをみんなが勝手に持っているのではないか。しかし、「老人ホームは、高齢者の方が楽しく過ごせる場をめざしている」と話してくださった。この二つの言葉が、「老人ホーム」のイメージをしないで明るくしていってくれた。

次に、老人ホームで実際に活動をさせてもらった。最初は、老人の方とお話することにもとまどった。でも、自分から話していったことが、老人の方にも気に入ってもらえたようで、その後ほとんどん会話がはずんだ。それと、お風呂に入った老人の方の髪を乾かしたり、くしを使って髪をとかしたりしたことが、自分では大きく進歩したと思うし、自信がわいた。この二日間は、「老人ホーム」のイメージを変えてくれたし、ボランティアに対する考え方も変えてくれた不思議な二日間だった。

## 学んで考えた 福祉ワークキャンプ 八郷南中2年 足立泰子



わたしは、初めて「ワークキャンプ」に参加して、ほんとうに学んで、考えたことが多くあったと思います。

まず、「福祉活動を行ってみて、『三つの笑顔』ということを学びました。相手の方の笑顔、手伝ってくださった人の笑顔、そして、自分自身の笑顔といった、三つの笑顔が大切だということ学びました。

次に、相手に対して、どんなふうに接すれば、相手に喜んでもらえるのだろうか。どうすれば相手の人に自分の考えを伝えられるのだろうか。といったことが、すこしまり、老人ホームなどで、おじいさんやおばあさんと話をする機会がなく、今回は夏休みだけしかできない貴重な体験ができたと思っています。福祉は、自分が相手に「してやる」のではなく、「手伝っている」ということがたいへんよく分かりました。そして、「ボランティア活動は、だれかがやってあげるものではなく、自分でできることから第一歩が始まると思います。」

# 中学生のボランティア体験 心を できることから

人へのいたわりや優しさ、奉仕とはどんなことかを学んだ2日間。体験を終えて書かれたみなさんの感想文から、それぞれの視野の広がりや心の充実が感じとれます。4人の感想文を紹介してみます。



## 心に響いた言葉、目くばり 気くばり、心くばり

有明中2年 佐藤明美

わたしは、このワークキャンプを行い、ボランティアについて、いろいろな人の話がすこし分かったような気がします。とくに、わたしが福祉についての話の中で大事だと思ったのは「目くばり、気くばり、心くばり」という言葉です。わたしは、その通りだと思えます。もし、だれかが福祉の仕事をするようになったら、最低限この言葉をいつも心に入れていけるといいと思います。

わたしは、「ボランティア」という活動をしている人は、とても尊敬できる人だと思えます。それは、とてもたいへんなことだからです。わたしは、今回ボランティアの体験に参加してとてもたいへんだということが分かりました。それに、ボランティアということはお金をもらわずに自主的に参加して行くものなので、このボランティアに参加している人は、とても尊敬できます。

目かくし歩行、車いすを体験して、わたしはそういう人の気持ち加ほんの少しですが分かったような気がします。目かくし歩行と聞いてもそんなに難しくなさそうな気がするけれど、実際にやってみるとそこには不安がたくさんありました。こんな体験をしたから、もし、目の不自由な人がいたらひと声をかけてあげようと思います。

ワークキャンプでふだんできないような体験ができてよかったです。

## よい経験 友だちと思い出 できたワークキャンプ

柿岡中2年 今泉香織



わたしは、老人ホームを訪ねるのは、初めてで自分で何をやっていいのかわからなくて、とても不安でした。でもわたしのまわりにいる人たちも、わたしと同じ気持ちなのかなと思いがんばろうと思いました。

そして、A・B班、C・D班に分かれて、おばあさんやおじいさんたちのお世話をすることになりました。わたしたちA・B班は、廊下のそうじをやったり、お話の相手になったり食事をつくったり……。

最初はいやだと思っても、九十歳以上のおばあさんでも、とても元気のある人たちもいたりして、今ではいい経験になったと思

います。

そして、老人ホーム以外にも目かくし歩行をしたり、車いすに乗ったりもしました。アイマスクをしての目かくし歩行。かなり怖かったです。車イスは、何とも言えない乗り心地でした。その時、わたしは思いました。それは、事故などや、生まれつき目や足が不自由な人たちは、毎日こういう生活をしていて、かわいそうだなと思いました。

パーベキューの時や夜の自由時間などには、みんなでわいわいがやがやと騒ぎまくりました。そして、たくさんの方たちとよい思い出ができました。

# — 57年の歩みをつづる —



夢はあたため続けて

けっして凍らせないこと

杉山 はつ

大正10年2月3日群馬県高崎市の商家に生まれ、昭和15年八郷町の農家に嫁ぐ。以来、農業に従事。元八郷町社会教育委員、公民館運営審議委員。

現在も趣味の読書を通じて、数々の投稿に入賞、講演も多数依頼されている。

今回紹介する作品は、財団法人

北野生涯教育振興会から昨年の十

一月に賞を受けた杉山はつさん

(77)の受賞作品です。作品の中で

杉山さんは、

「豊かさとはお金のある事ではあ

りません。お金があれば何でも買

えます。けれどもお金で買えない

ものがあるのです。私はそれは愛

と 생각합니다」

と音楽や読書、絵、書を通して、

生きる喜びを学び、夫婦たがいに

思いやりの心を持ち、幸せを求め

続けてきて得られたものを教えて

くれています。

真の豊かさを求めて

杉山 はつ

満ち足りた生活と人が思っても、

当人は満足せず不平、ぐちをこぼ

すのです。その様な人は「足りる」

を知らないのです。金や物が羨む

程あっても不幸な人です。

自分を反省せず、夫がわるい、

家の子が悪くなったのは先生のせ

いだ、と何事も人のせいにして

います。仏の教えに「知足」というのが

あります。人間、欲望には限りが

ありません。「足りるを知る」と

いう意味です。古の歌にもこの様

ながあります。「破れたる衣を

きても足る事を知ればつづれの錦

なりけり」と。ですから真の豊か

さとは足る事を知る心にあるので

す。生きる喜びを知る心にあるのです。満ち足りた生活はそこにあるのです。

私は論語が好きで自分でも毎日読み、人にもおすすめています。孔子の教えで一番好きなのは、「疏子<sup>しうし</sup>をくらい、水をのみ、肘<sup>ひじ</sup>をまげてそれを枕<sup>まくら</sup>するも、楽しみ又その中にあり、不義にして富み、かつ尊きは我においては浮雲の如し」です。貧しいくらしであつても正しく生きるのが一番すばらしいのだという教えです。

私はその心をついて教えられました。夫は農民であつても一坪の農地も無く、小さな宅地さえ自分でない家に生まれました。当時でいう小作人の長男であつた夫は口べらしの為に少年の頃からあすこに三年、こちらに二年と奉公につとめその賃金はすべて家に入れていたそうです。その自分のおかれた境遇をうらまず、なげかず小学校も満足にいかなかったので農業のかたわら一生物学びつけている人です。私が小説の様な運命のめぐり合わせで夫のもとに嫁いだのが昭和十五年。十八年に応召、戦地に赴き、二十一年十二月に帰つてきました。

夫は宮沢賢治の詩の「雨ニモマケズ」の様な人でした。近所に病人があつて仕事のおくれている家があればお手伝いに行き、食物に

困っている人があれば自分で食べなくても分けてやる人です。私はその心が好きでした。だから私はこの人について行って五十七年も愛情豊かに過ごせたのです。夫はいつもこの様にいていました。

「何事も善意に解せばそこから満ち足りた生活が生まれてくる。上を見ればきりが無く、下を見れば又きりが無い。

一生自分の好きな事、やりたい事の大きな夢に向かつて進み、夢はつきつきに実現されていった。

その満足感で一杯だ。これもお前のおかげだ。おれはお前にめぐり合つてよかつた。だから幸せになれたのだ」と。

生きるからにはだれも幸せになりたいものです。心のもち様一つでこんなにも豊かになれるのです。

私は商家の生まれで野良仕事が出来ない。そんな女を嫁にむかえて私以上につらかつたでしょうが、その事には一言も触れませんでした。「こんな生活でわるいね。つらいだろう。今にきつと幸せにしてやるからな」という夫の言葉にいく度はげまされた事でしょう。か。そして夫の言葉通り豊かな生活、豊かな心をもてた私でした。

覚悟していたとはいいながら私はこの家に嫁いだ頃、驚きと、とまどいの毎日でした。電気もガスも水道もある都市育ちの私にはあ

まりにも過酷な生活でした。でも夫の愛がありました。

戦争によって七年の夫とのわかれもありました。転んでは起き、起きては転び、歩けなくなれば這つても進んだ一筋の道が幸運の道でした。一筋の道を夫と手をたず

さえて歩みつづけたのでした。ある時は台風でたばこの葉がずたずたにひきさかれて、畑中にむざんに落ちた事がありました。夫がたばこの畝<sup>うら</sup>ごしに私の手をにぎつて、

「来年がある。生きるという事こういう事だ。がんばろう」と言いました。たばこの脂でまっ黒のべたべたとねばりついた二人の手でした。

「今年こそお父さんに背広と靴を買って上げようと思つていたのに」と泣きそうになりましたが夫の、

「これ位の事で負けてたまるか。人間というものは苦しみの後の喜びが最高なんだよ。いつもお金にめぐまれてる者はお金のありがたみも分らないんだよ。来年、来年」の言葉に救われました。

農家ですからいつも一緒に仕事をしています。仕事をしている時でも、家にいる時も、常に会話ははずみます。よく近所の人から、「お宅では話しの種がよくつきないね。羨ましい。うちなんか話しかけても返事もしないよ」

といわれます。

十時と三時の休みの時には土でよこれた手を野草でふき、四合びんに入れた水のみ、ふかしたきつま芋をたべ、将来の夢や子供の事を話し合いました。

自らの前半生の延長が老後です。豊かな老後を望むなら若い時から心がけが必要なのです。私は自分の生きてきた道をふり返つた時に、近所の人たちにはずい分お世話になつたと思ひます。仕事の半人前の私をよくめんどうを見てくれました。一本ずつむしる田の苗

の中をなかなか進めない私を両側の人たちはむしつて手伝つてくれました。山に行けばそだ木をとれない私に、皆で一かかえずつ取つて私の束をこしらえてくれました。その御恩は忘れじと何十年たつても、肝に銘じて居ります。

人は素直に生きる事、夫婦たがい思いやりの心をもつ事、夢はあたため続けてけつて凍らせない事、と念じ続けてきました。豊かさを求め、求め続けてきました。らむこうから豊かさがきたのです。私の家の開墾畑にギター文化館が建つたのです。世界的名器がたくさん展示してあり、生の演奏が聞けます。音楽の殿堂が建つたのです。夢見続けた音楽のある生活が出来る様になりました。今の私は生きる喜びにわき立つ毎日です。

豊かな生活とは、音楽、読書、絵、書にかこまれて生きる事です。皆で喜び合つて生きる事です。全国に友をたくさんもちました。夫や子供からもあふれる程の愛をうけています。その上私には物を書くのが好きという情熱があります。まわりを見れば何でも歌になつてくれます。

お金も土地もなかったけれども、心豊かな五十七年でした。豊かさとはお金のある事ではありません。お金があれば何でも買えます。けれどもお金で買えないものがあるのです。私はそれを愛と想ひます。人の世のどん底をあえぎ生きてきました。が楽しい五十七年でした。

メーテルリンクの青い鳥という戯曲でチルチルとミチルが幸せの鳥、青い鳥、を求めて旅に出るお話があります。幸せの鳥は遠くにいるのでは無く、自分の足元にあったのです。そして自分の努力でつかまえる事が出来るのです。

毎夜、寝付く前に「今日もすばらしいいい日だった。明日もいい日がある。いや、いい日にする様に努力しよう。生きてるのは何とたのしい事か」と思いつつ休みます。ですから一生の終りにも、

「自分の一生はまわりの皆さんのおかげで豊かで光りかがやく日々であった。ありがとう」といつてさよならしようと思つています。

(7)

# 犯罪のない社会をめざして

社会を明るくする運動の強化期間中の七月十四日、中央公民館において、「第四十八回社会を明るくする運動」八郷地区大会が開かれました。この大会は、保護司会、更生保護婦人会、人権擁護委員会をはじめ関係団体からおよそ百名が参加しました。非行や凶悪犯罪の低年齢化がすすんでいるといわれる中で、関係機関や団体など町全体で力を合わせて犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更生支援など、明るい社会づくりへ協力体制の強化を図りました。

## 凶悪化する 青少年犯罪

大会では、広報映画「少年の地獄」の上映、水戸保護観察所長橋本詔子さんによる「凶悪犯罪の低年齢化」と題する記念講演がありました。

橋本さんのお話によると、全国における戦後の青少年犯罪は、昭和五十八年が第三のピーク、茨城県はピークはそれより遅れて昭和六十二年、いま第四のピークに向かって上昇傾向にあり、また凶悪犯罪が低年齢化している傾向の中で、それをおさえて行かなければならない状況にあるということでした。(図1参照)

非行少年たちとかかわった経験をもつ保護司の方々へのアンケート調査では、青少年の非行化の最も大きな要因として、家庭がトップにあげられています。

橋本さんはまさかと言われている家庭教育の低下という点について、「親が子育てに自信をなくしているということにも原因が

### 社会を明るくする運動八郷地区大会



演題「凶悪犯罪の低年齢化について」  
水戸保護観察所長 橋本詔子

アンケート調査をもとにしたお話では最近の青少年犯罪は凶悪化、悪質化の傾向と見ており、非行の原因は①家庭、②社会環境③本人の性格④マスメディア⑤学校との見方が多いと話していました。

図1 戦後の主要刑犯少年の人口比の推移



(注1) 人口比とは、同年齢層の人口1,000人当たりの補導人員です。  
(注2) 主要刑法犯とは、刑法犯のうち凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦)、粗暴犯(暴行、傷害、脅迫、恐喝)、窃盗、知能犯(詐欺、横領)及び風俗犯(賭博、わいせつ)です。

あり、社会全体が協力して子育てを支援していくことが大切とし、子どもたちが健全に育つ家庭環境づくりには、いろいろな方面から子どもを持つ親を支えてあげることが必要であると語っていました。

さらに橋本さんは、「保護観察処分少年たちが一般社会で生活しながら、更生をめざすには、保護司の方たちが本人との定期的な接触や家庭訪問などを通して親、

兄弟の協力を得ながら、家族の関係を修復していくことも大切。このなかでお互いの人間的な信頼関係が不可欠になっている。更生に向かっている段階で再犯となる者も多いが、更生し社会復帰している少年たちがいることを考えれば、これからも関係団体のみなさんをはじめ、社会全体で温かく見守り、協力して支援をお願いしたい」と話していました。



# 98秋のブライダルフェア(結婚展)

♥お二人の幸福は〜つくばねから♥



■お問い合わせは

八郷町 つくばね  
国民宿舎 八郷町大字小幡2132-50  
☎0299-42-3121

国民宿舎「つくばね」では、幸せなお二人の新しい門出にふさわしい厳粛な結婚式、華やかな披露宴の演出など、心を込めてお手伝いにつとめております。

このほど、秋の結婚シーズンを前に、恒例となりましたブライダルフェア(結婚展)を開催いたします。婚礼衣装や披露宴の料理、引き物など展示した品々をご覧ください、みなさまのご希望やご予算に合わせてご相談も承ります。ぜひこの機会にご来場いただきますようお願いしております。

一度ご覧になり、ほかと比較されましても、きつとご満足いただけるのではないのでしょうか。

## ♠ 同時開催 祝七五三 ♠

七五三祝いの晴れ着などの展示も同時に開催、ご予約もお受けいたします。

■日 時 9月6日(日) 9:00~17:00

■会 場 国民宿舎「つくばね」大ホール

みなさまのご来場を心からお待ちしております  
【ご来場の方に、記念品を進呈】

花と緑の楽園  
茨城県 フラワーパーク

### 園芸教室

秋植え球根  
~植え方と管理~

秋植え球根の代表的なものにはチューリップ、ヒヤシンス、クロッカス、ユリなどがあり、春の花壇を飾ってみたい。

◆植えつけ時期  
十月上旬から中旬が適期で遅くとも下旬までにすませる。早すぎると地温が高すぎ、生育障害を起こすし、遅すぎると十分に発根する前に寒さにあい、生育が遅れてしまうので注意する。

◆植えつけ場所  
午前中日があたる排水の良い所がよく、あまり土は選ばないが、排水の悪い固い土なら、堆肥を1㎡あたり2kgくらい施して、三十cm程度耕し、盛り床にしてやるとよい。

◆肥料  
球根に養分と花芽があるので、肥えた土なら無肥料でよいが、やせた土では元肥として、油粕か化成肥料を1㎡あたり二十g

くらいやる。

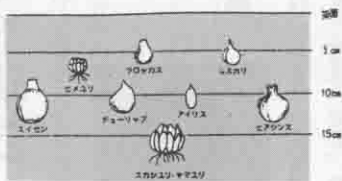
◆植え方

植える深さは種類により異なる(図参照)が、間隔は球根の大きさ(直径)の四倍から五倍あればよい。

◆管理

☆水やり……冬でも根は活動しているの、乾燥するときは二週間おきくらいにたっぷり水をやる。

☆敷きわら……乾燥防止、霜柱害予防、雑草発生予防などに効果がある。(園芸課 矢口)



球根の植え込み深さのめやす (花 欄)



(一) 江戸時代の離縁状

「先生、きょうはね」とY子ちゃんがわたしの方へよってきていうと、まわりの子みんなが「提灯とつけっこ」と、大声でニコニコしながら合わせた。彼女は登校しなすぐ、教室のみんなにこの事を話していたのだった。

わたしが小学校に勤めていたころのことで、随分と昔のことのようにも思われるのだが。

「提灯とつけっこ」とは、結婚式の当日、新郎新婦がそのもらい方の家の上り口に立つと、男の子と女の子(両親の揃った家庭の子)が持っている提灯を、三回とりかえっこをすることである……と。

「八郷町誌・婚礼」より  
わたしはこれを見たことはないが、この風習が残っていたのは、多分昭和四十年代の半ばのころ? まででもあろうかと思っている。いやそれよりももう少し後まで残っていたかも。

今はもう結婚式場で、あるいはホテルで、多くの人に囲まれて豪華に行われるような時代になっている。しかし、きょうはこのお目出たい話とは正反対のことを取り

上げてみた。現代のことではなく、江戸時代の「離婚」について「離縁状」についてである。ここに書かれている「離縁状」は、農民の栄八が妻のおせんに出したもので、江戸時代、十九世紀の半ばごろの物である。

離縁状之事

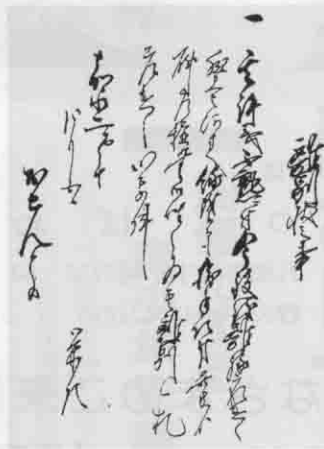
一其許儀不熟付今般致離縁差遣候  
然上何方縁付候而も勝手次第代  
此方も聊差儀無御座候為其離別の  
一札差遣候仍而如件

嘉永二三年(一八四九) 栄八  
四月五日

おせんと

江戸時代の女子の立場は

妻からの離婚の請求はとてどもでも考えられなかった。離婚は、夫や夫の両親たちの都合で一方的におこなわれた。武士は離婚の理由を幕府や藩に届け出ればそれでゆる「三行半」という一枚の紙切れで離婚が成立した。もし、文字を知らず書けない場合は、三行半



江戸時代に書かれた離縁状

の線を書いて渡せば、それだけで成立したという。

それで離縁状のことを別名三行半と  
いった。

この三行半がなければ、女は再婚することもできなかったの、これは又、離婚の証拠になる証明書でもあったのである。

「女は夫をもつて天とす。返すがえすも天にそむいて天の罰を受けるべからず」と。どんなに理屈にあわなくても、ただただ盲従することが妻の道であった。

封建時代の道徳は女性を人間としてみとめてはいけない。今でも世の主婦たちは、夫のことを「主人」とよんでいる。これは、江戸時代の子女の学習書「女大学」女性訓の名残だそうであるとか。町文化財保護審議会委員田上静子

●最近気になる病気

「熱中症」って  
どんな病気?

石岡市医師会病院

内科 本多 教章医師



ことしもまた暑い夏がやって来ました。七月に入り猛暑のため体調を悪くし病院に運ばれたり、お年寄りのなかには亡くなられた方まで出ています。今は、高温や高湿、風速などの環境気象条件と、わたしたち人間側の諸条件(加齢、疲労度、飲水の有無、筋肉労働など)とが関係して起こる「熱中症」についてお話しします。「熱中症」はその病態により「熱けいれん」「熱疲労」「熱射病(日射病)」の三つに分類されています。

「熱けいれん」は屋外の高湿下で運動したり、作業しているときに多量の発汗に伴って過度の塩分が失われて起こります。興奮性が高まり、筋の痛みを伴うけいれんがみられ、平滑筋もけいれんするため腹痛や嘔吐もみられます。しかし、体全体のけいれんはなく、体温の上昇は軽度です。衣服を脱がせ、涼しい所に休ませ水五百mlに茶さじ

約一杯(5g)の食塩を入れて飲ませると効果的です。飲めない時は病院での点滴も必要となります。「熱疲労」はいわゆる脳貧血状態で、軽いめまい、気分不快を訴え軽い失神がみられます。基礎に過労や二日酔い、睡眠不足があったり、消耗性の慢性病が誘因になります。多くは、激しい運動時に水分や塩分、エネルギーを十分に摂取していないためにおこります。できるだけ早く体温を下げる必要があります。「熱射病」より重症で病院での治療が必要となります。

「熱射病」は最も重篤な状態で、四十度以上の高体温によりいろいろな臓器が障害を受けます。早期診断と早期緊急治療を要するため速やかなる病院での検査、治療が中心となります。

最近のように冷暖房完備した環境のもとで育った人々には高温高湿下での体動は不慣れであり「頭張れ」などと気合いを入れたりするのは禁物のようです。

この夏、ご参考までに。

わたしの手料理

なすのポトフライ  
しそごはん



食生活改善推進員 藤岡京子(太田)

なすのポトフライ

〔材料〕 (4人分)

- \* なす……………4個
- \* 塩……………少々
- \* 酒……………大さじ1
- \* ごま油……………大さじ1
- \* 卵……………1個
- \* 豚ひき肉……………200g
- \* しいたけ……………3枚
- \* ビーマン……………2個
- \* にんじん…………… $\frac{1}{2}$ 個
- \* 玉ねぎ…………… $\frac{1}{2}$ 個
- \* 片栗粉……………少々
- \* パン粉……………適量

〔作り方〕

- ① なすのヘタを取り、たて半分に切り、皮に切り目を入れて中身をくりぬき塩水につける
- ② 野菜はみじん切りにして調味料を入れて混ぜる
- ③ なすの内側に片栗粉をぬって②をつめる
- ④ つめた表面に卵をぬりパン粉をつけ油で揚げ

しそごはん

〔材料〕 (4人分)

- \* しそ……………5~6枚
- \* しょうが……………1かけ
- \* 梅干し……………3個
- \* 塩……………少々

〔作り方〕

せん切りし、あくを抜いたしそとしょうがと、つぶした梅干をたきたてのごはんにまぜる(塩で味を整える)

おひな家GIRL

小幡

飯田裕香ちゃん

父 孝雄さん 母 真美さん  
平成8年8月4日生まれ  
♥家族からの一言



お天気の日以外は外でよく遊んでいます。最近では特に散歩することが好きです。家の中では本を見たり、絵を書いたりすることに興味を持っています。好奇心旺盛な子です。愛きようと思いやりのある子に育ってください。

八郷の地名

⑤

玉造・たまつくり

〔柴内・弓弦地区〕(上)

私は学生のころ、久慈郡久米村(現・金砂郷町)玉造に所在する玉作遺跡の調査を体験している。その後柿岡に赴任し



「玉造」周辺地形図

てまもなく、玉造の調査で得たわずかな知見から、古墳時代から奈良・平安時代にかけて、玉作の生産に携わった專業集團の工房跡や住居跡などの遺構が存在するという可能性に期待し、少なからず興味関心を寄せていたのが小桜川中流域右岸の低台地上、大字柴内と大字弓弦の行政界を跨ぎ、朝日小学校に隣接して「玉造」と表示する四つの字名柴内・玉造・玉造上町・玉造上ノ町、弓弦・玉造である。町域に行政上の公称字名は四千七百ほど分布するが、「たまつくり」の小字が該地に集中するのは偶然と思えないばかりか、「弓弦」ゆずり」と称する旧村名の由来についても単なる歴史の付会名称ではなく、かなり遡る古い時期に玉作專業集團が作業過程で工作器具として用いた堅軸軸輪(たてじくろくろ)との関連が求められそうなる由緒ある地名と推測し、これまで数回の現地踏査を試みたものの示唆的な物証を得ることはできなかった。ともあれ、遺跡の存在が明確に把握できれば必然的にその性格も明瞭となり、同時に地

名の起源につながる重要な示唆が与えられるものと確信していた。最近になり、該地周辺の再踏査を数回行ってみた。ある程度の見当をつけて県道に沿う地域を主に地形や耕作面などの観察を試みたものの、該地を特定するにしても地理不案内の者が頼りにするのは字切図であった。しかし、周辺の土地利用の状況を見る限り、両大字境界域には飛地が複雑に入り込んでいて、容易に目的地に到達できず難渋していたところ、路傍(旧道)に建つ二基の石造物が目にとまった。一基は板状の自然石の中央部分を研磨して刻字する天明七年(一七八七・柴内村講中へ天明期の大飢饉のころ)造立の光明真言供養塔、他の一基は供養塔の右側に並ぶ浮彫地藏菩薩立像(年次不詳)で、その石像仏を支える台石上に石仏と無縁と判断できる板石が置かれていた。

板石は粘板岩質の石材である。形状は長方形に整えられて縦三八cm・重量二四kgほどが計測され、縦側面のひとつは中央部分が上端より四・五cmほど磨き込まれて孤状を呈し、反対面の下半部も研出し間もない磨き跡が残る。いずれの面も平滑で平砥石の形態そのものであり、おそらく仕上げとして用いられたことに相違ない。砥石はその形状と大きさから判断して、土中に三分の一ほど本体を埋設固定して使用されていたものと思われ。とにかく、希少例である大型砥石は、「玉造」あるいは周辺域から採集されていたことは紛れもない事実なのである。しかし、なぜ、地蔵の傍らに置かれていたのかという素朴な疑問が生じた。後日、地元の方から寄せられた情報では、期待していた基本的問題の解決にまで至らなかったが、昭和も初期のころ、地元の方がこの砥石を採集して自宅に持ち帰り、一時、鎌など農具の研磨に使用していたところを故あって石仏の前に納置したという。このことはすでに七〇年余も経過しており、砥石は半ば伝承化の物件になりつつあるが、現在地に置かれた経緯を知ることができ、ひとつの謎が解けて安どしたのである。(以下次号)

八郷町文化財保護審議会委員 西宮 一男



片野 皆川 遙香 (8)



月岡 ネネ・オカカ (14)



下青柳 関 祐一 (8)



柿岡 高橋 憲一



月岡 萩原 志づ



私も  
ひとこと

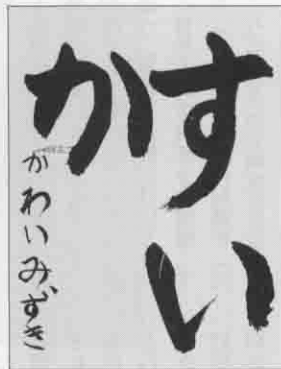
〔人生、細く長く!〕

協だよりの表紙の絵と詩を書いた八郷町南中二年の広瀬由美ちゃん、すばらしい作品ですネ。いまからの貴女の人生、細く長く頑張ってください。七十歳になるわたし。良くは出来ないけれど、由美ちゃんの絵に挑戦してみました。 月岡 萩原志づ

六月三十日発行の社協だよりの表紙を飾った作品です。ペガサスと一緒に走っている女の子の絵と、「独りじやないからみんないるから………」という文頭からはじまる詩。心打たれました。この作品は八郷南中学校のボランティア活動の中で作られたものなのです。多くの人々が感銘を受けたこ

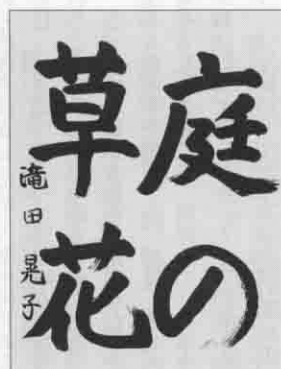
評 玄潮会理事 森 浩亭

柿岡小一年 川井みずき



おもいきり良く書けています。

柿岡小五年 滝田晃子



丁寧な筆使いで、落ち着いた作品です。

とでしよう。

〔無償のこころ〕

(広報係)

報はいつも見えています。わたしは柿岡に買い物に出かけます。

その時、決まって必ずごみ拾いをしていいるフラワーヒルの八十歳は過ぎていると思われるおじいちゃんに出会います。 広瀬とよ (39)

いまは物があふれている時代。たくさん買えば、いらなくなる物が出てくるのは当たり前です。でもどうして決められた所に捨てられないのでしょうか。誰だって、自分の家のまわりにゴミが捨てられていたら嫌な思いをすると思います。見てないからいいや」と、安易な気持ちでごみを捨てる。き

つとそこは、「ごみ捨て場」と化してしまっでしよう。そのようなことにならないようにと、おじいさんは無償の精神で拾っているのでしょうか。困っている人はたくさんいます。(広報係)

わたしの家族は七人家族です。わたしと息子夫婦はそれぞれ会社に勤めています。主人は孫三人の送りに勤めています。夏になると、家のまわりの草刈りや、趣味で花木を植えたところの除草などで大忙しです。わたしも会社に行く前に草取りなどをしますが、毎日がその繰り返して一週間、一ヶ月がいつの間にか過ぎてしまいます。

瓦谷 小松和江 (60)

全問正解者のなかから  
抽選で図書券が当たるよ

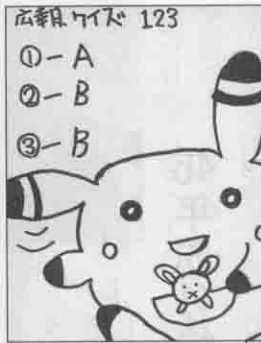
# 広報クイズ 125

3つの答えの中から正解を選び  
ハガキに書いて送ってください。

- ①夏休みに中学生たちが参加した  
ボランティア体験は何キャンプ？  
(A)オートキャンプ  
(B)ベースキャンプ  
(C)ワークキャンプ
- ②戦後の青少年犯罪の推移を見ると  
何回かのピークがありましたがいま  
まわっているのは？  
(A)第4 (B)第3 (C)第5
- ③7月12日に行われた参議院議員  
選挙の町の投票率は？  
(A)50.09%  
(B)46.09%  
(C)36.09%

### 【応募の方法】

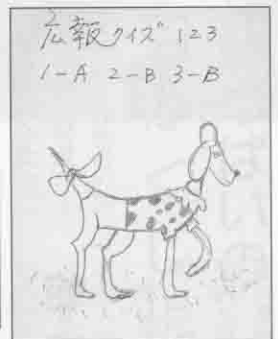
☆ハガキに広報クイズ125と書き、  
答えの記号(例1-A)、住所、氏  
名、年齢、世帯主と「私もひとこ  
と」へのご意見や広報の感想など  
を書いて送ってください。イラスト  
やマンガも大歓迎。  
☆全問正解者の中から10人に、図  
書券をプレゼントします。  
☆締切日 平成10年9月21日  
☆応募先 〒315-0195 八郷町柿  
岡5680-1 八郷町役場秘書広聴課  
☆当選者の発表 本紙10月号  
【広報クイズ123の当選者の発表】  
正解は1-A、2-B、3-Bでした。  
応募総数44通、正解44通の中  
から次の10人が当選しました。  
飯田葉子(鯨岡) 飯塚恵理奈(下  
林) 奥村友香(山崎) 木崎みさ子  
(上青柳) 木村はる江(上曾) 杉  
山はつ(柴間) 開祐一(下青柳)  
田口ふみ(片野) 広瀬とよ(須釜)  
藤崎早苗(真家) [敬称略]



ひとえ



ウテナ



下林 氏家 寛

## ●やさと文芸

料理誉め合う姑と嫁の茶の間明るい気の配り  
たんと持たそう茄子、瓜、団子蓮の葉に載せ靈送り  
下林 額賀 力江  
下林 大山 恒泉  
山崎 鈴木 君江  
苦勞話しに花咲く茶の間姉妹集うてにぎやかに

### 俳句

どっさり山百合の供華水子の碑  
揚羽蝶ひらくひらと野点てかな  
庭の草長けるま、なり梅雨長し  
下林 佐藤 繁子  
東成井 小島 せん  
柿岡 小池 勇

### 俚句

小川辺の青田の上を舞う螢青い光の尾を闇に引く  
東成井 小池 亀太郎

### 短歌

日によりて色のこくなる紫陽花はお色直をするように見ゆ  
柿岡 阿部 秀雄  
馬鈴薯の土盛り上げて育ちしを掘る喜びに疲れも忘る  
月岡 萩原 照子

吉田 次郎 選



婦人会行事のレクリエーション  
のようす。キングレコード会社専  
属の先生をお招きして「新花笠音  
頭」などの指導を受けました。  
(昭和三十九年七月)

キッドコー



# 「まち」の「話題」で「き」ごと

身近な出来事や地元の話題をおよせください  
 (連絡先・秘書広聴課内線一三四三)



家庭介護者のつどい

## 仲間どうしでの交流を『家庭介護者のつどい』

七月十九日、役場会議室において「家庭介護者のつどい」が行われました。こととして三回目をむかえた介護者のつどいは、介護経験者二人による介護体験談の発表、町の在宅福祉サービスに携わっている福祉課、社会福祉協議会、保健センター、在宅介護支援センターの職員を紹介を通して、介護者の皆さんへ在宅福祉サービスの認識を図ったものです。今回は介護者の慰労を兼ね、ちびっこおはやしを披露し、介護相談や血圧・血糖・尿糖測定のコナーを設けました。参加者全員にお願いしたアンケートでは、今後参加してみたいものに、介護者どうしの交流会が最も多く、やはり情報交換の場を望んでいるようでした。

## 46年ぶり幌獅子威勢よく

### 『白鳥神社祇園祭』

七月十五日、小幡の白鳥神社の祇園祭が行われました。ことし初めての試みで道路を歩行者天国にし、山車と里地区に伝わるという幌獅子が四十六年ぶりに元氣良く町内に練り出しました。地元以外の地区からの見

物人も多く見られ、祭りはいままでにならぬ賑わいをみせていました。こうした伝統文化にふれることによって、地域に住む人と人とお互いに親睦を深め、地域全体は活性化していくことでしょう。



## 朝一番の川そうじ 『朝日地区維持管理』

朝日土地改良区では、毎年河川清掃を行っています。ことしも小桜川上流域の柴内と弓弦地区の皆さんが朝七時から土手の草刈り、ゴミ拾いに精を出し、川はみちがえるようきれいになりました。こうした活動をとおして、河川の保全管理につとめている皆さんに感謝し、これからも続けられることを願います。

ときめき

ティータイム



若松 富美江

(柿岡・21歳)さん

スポーツが大好きで、最近はお家族や友達とゴルフで汗を流しています。



## 町子ども会球技大会結果

ソフトボール〔Aブロック〕●優勝成井Aチーム●準優勝林Aチーム●三位吉生Aチーム〔Bブロック〕●優勝朝日Aチーム●準優勝勝芦穂Bチーム バレーボール〔Aブロック〕●優勝恋瀬Aチーム●準優勝小幡Aチーム●三位朝日Aチーム〔Bブロック〕●優勝小松Bチーム●準優勝恋瀬Bチーム

# 一打に集中して

総合運動公園で七月十九日、「八郷町ターゲット・バードゴルフ場オープン記念大会」が開かれました。ターゲット・バードゴルフ協会会長の狩野安文部政務次官(当時)も選手たちの激励に見え、行われた試合の結果は次の通りです。

〔男子の部〕一般 優勝▽石崎哲生(金砂郷町) 準優勝▽青木六介夫(日立市) 三位▽初鳥忠則(霞ヶ浦町) シニア 優勝▽石崎

雅生(金砂郷町) 準優勝▽山崎芳男(八郷町) 三位▽石井良友(日立市) ゴールドシニア 優勝▽齋藤芳美(岩瀬町) 準優勝▽久保田晴信(美野里町) 三位▽飯田昭二(岩瀬町) 〔女子の部〕一般 優勝▽米坂幸栄(茨城町) 準優勝▽荻野三代(水戸市) 三位▽渡辺好子(茨城町) シニア 優勝▽林正子(茨城町) 準優勝▽大串みつ江(金砂郷町) 三位▽深谷信子(岩瀬町)

## 機敏な動きで勝利 町消防ポンプ操法競技大会

消防ポンプ操法やチームワークなどを競う消防ポンプ操法競技大会が七月二十六日に行われました。あまり良いとはいえないグラウンドコンディションの中で、九チームが参加し、心強い声援を受けながら日ごろの練習の成果を披露しました。

結果は次のとおりです。

〔小型ポンプの部〕●優勝第一分団第四部(八重) ●準優勝第六分団第五部(鶴沼) ●三位第四分団第五部(小見) 〔自動車部の部〕●優勝第八分団第三部 ●準優勝第七分団第二部 ●三位第一分団第二部

## いのししと記念写真

### 有喜鳥獣駆除

八郷町全域に渡り、カラスや猪の駆除が行われました。

有喜鳥獣駆除隊による鉄砲とわなを使った捕獲作業は、八月一日から十日までの十日間にわたり行われました。この期間中に、全長二m二十cm、重さ約八十

kg 年齢が三才くらいになるといおうおすの猪が峰寺山で捕獲されました。

山や畑などを荒らすカラスや猪。特に農家の人たちにとっては天敵です。二羽、一匹でも減らそうと、隊員の皆さんは夏の暑さの中、捕獲に精を出していました。



広報「やさ」とがみなさんのお手元に届くころ、子供たちの楽しい夏休みは、いよいよ終わりに近づき、一家協力して宿題の整理に奮闘されているのでは。



これは勝手な推測をして申し訳ありません。なにしろ我が家がそういう状況なものですから。夏休みに入る前、子供たちには「毎日やることをかたずけておけば、最後は余裕で過こせるよ」と偉そうなことは言いつつも、自分の子供のころの過ごし方を考えると、きついことも言えないのです。宿題などは最初の二、三日と終わりの二、三日、中に遊びをはさんだハンバーガー状態。はなはだしいのは、始業式の日、絵などを仕上げたこともあったよつな。

そんなものですから、頭に残っているのは遊びや体験したことのみ。夏休みの友というワークブックは友という思い出はありません。この夏休み、ボランティア体験に参加した中学生たち取材しました。夏休みの宿題は提出して終わりですが、体験して芽生えたボランティアの芽は、心の中で大切に育ててほしいものです。(市)



## 参議院議員選挙結果

# 町の投票率は46・09%



景気の低迷が続くなかで経済対策が最大の争点となつた参議院議員選挙は、七月十二日に投票が行われ、町としては、今回の選挙は公職選挙法の改正で投票時間の延長や不在者投票の方法などが変更になつてから初めて行われた選挙でした。町選挙管理委員会では、前回低迷した投票率をアップさせようと有権者への棄権防止を呼びかけま

## 敬老会

### 招待年齢引き上げ 段階的に75歳に

九月十五日に行われる敬老会（主催各地区公民館）の招待者は、昨年度まで七十歳以上でしたが、ことしは七十一歳以上の方に引き上げられます。さらに、これからは二年ごと一歳ずつ引き上げられ、最終的には、八年後の平成十八年に七十五歳以上の方を招待者とする方針です。

これは、平均寿命が伸長したことにより七十歳に達しても健

康で元気に暮らしている方がほとんどで、その数も多くなつてゐるため、引き上げることになつたものです。町では、少子高齢社会をむかへ、だれもが安心して暮らせる住みよ

いまちづくりのため、さまざまな施策を講じ、努力しているところですが、今回の引き上げにつきま

した。今回の町の投票率は、前回より一・五五%上がり四六・〇九%（県は五一・〇〇%）でした。なお、選挙区選出の各候補者別の町の得票数は次のとおりです。

- ◎有権者数 一三、八四八人
- ◎投票者数 一〇、九九一人
- ◎得票数（得票順・敬称略）
- 野村 五男 三、二〇九票
- 郡司 彰 二、二一九票
- 久野 恒一 二、〇五二票
- 小島 修 八六〇票
- 武藤 博光 六三三票
- 吉岡万理子 五九〇票
- 郡司 孝夫 三六六票
- 杉森 弘之 三三五票
- 片庭 正雄 六三票
- 無効 六六四票

## 交通実態調査

### 調査対象世帯のご協力を

交通実態調査（パーソナルトリップ調査）は茨城県が、建設省、一都三県、政令市と共同して実施するものです。

この調査は、対象となつたご家庭に協力をいただき、一定期間日常生活の中で、鉄道、バス、自動車等の各種交通機関や道路がどのように使われたかを把握し、今後の茨城県の総合的な交通計画に

## 園部川

### 河川改修にむけ

#### 促進協議会発足

七月十五日園部川河川改修促進協議会の設立総会が開かれました。八郷地内園部川の一級河川昇格や流域の災害防止のための改修工事の早期実現などをめざした地元推進活動がスタートしました。この協議会は、八郷町の流域住民のみなさんをはじめ、美野里町羽鳥地区住民のみなさんも加入して組織された任意の団体であり、今後相互に協力しながら、請願・陳情活動をすすめることになって

います。

- 役員は次のとおり決まりました。
- 顧問 桜井富夫（異議）
  - 会長 奥村 馨（向原）
  - 副会長 木村重巳（東成井上坪）
  - 同 皆川浩行（西原）
  - 同 石井喜好（東成井下坪）
  - 同 大和田進（西久保）
  - 同 長谷川靖夫（羽鳥）
  - 会計 倉田文夫（東成井中坪）
  - 監事 伊藤勝利（東成井中坪）
  - 同 伊藤芳明（東成井下坪）
  - 事務局 長奥村孝雄（向原）
- 〔敬称略〕

#### ◆調査の方法

調査員証明書をもつた調査員が、各家庭を訪問し、調査票を配布します。その際、記入の方法を説明します。後日、再び調査員が訪問して、記入していただいた調査票を回収します。

#### ◆調査の期間

九月から十一月の二定期間

#### ◆問い合わせ先

茨城県庁都市計画課  
茨城県庁都市計画課  
☎〇二九―二二―八一一  
内線四三六一